

練馬区外郭団体中期経営計画の達成状況

団体名	公益財団法人 練馬区文化振興協会	団体所管課	地域文化部文化・生涯学習課
-----	------------------	-------	---------------

経営計画期間	令和 2 年度 ~ 6 年度	※計画期間は基本計画が5年間(令和2~6年度)、年度別計画は3年間(令和2~4年度)
--------	----------------	--

団体の目指す将来像

区との密接な連携のもと、文化芸術施策の一翼を担い、公益財団法人ならではの柔軟性・専門性・公共性を生かした事業が展開されている。

区の外郭団体としての一貫性や継続性の強みを発揮しながら、区に居住する音楽家や芸術家、区民の多彩な文化活動などつながり、連携、協働して魅力的な文化芸術事業が展開されている。

取り組みを進めるうえでの「基本的方針」

新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、施設の臨時休館や事業を延期・中止するなど大きな影響が生じている。このような状況にあっても、感染拡大防止に配慮し、安全・安心な環境を確保したうえで、区民に文化芸術を継続して提供できるよう、下記の事項を基本的方針として取り組む。

・区政を担うパートナーとして、行政を補完・代替する役割を果たし、区の文化芸術施策と連携・協力し、区政に貢献する。

・収益事業の実施や外部資金の獲得などの自主財源の確保に努め、事業活動に再投資し、活動の幅を広げる。

・各施設が魅力ある事業展開と円滑な施設運営を行い、効果的・効率的に事業を実施できるよう組織・人員体制を再編する。

区が外郭団体に求めるもの

区との密接な連携のもと、区の文化芸術施策の一翼を担い、公益財団法人ならではの柔軟性・専門性・公共性を生かした事業を展開すること。

区立施設の指定管理者として、施設間の連携を図りながら適切な管理運営を行うこと。

達成状況の評価

外郭団体は、経営計画の取組や達成状況を毎年度、評価する。団体が行う達成状況の評価は、つぎの3段階で評価する。

「A」 計画以上に進んだもの

「B」 概ね計画どおりのもの

「C」 計画どおりに進んでいないもの

団体所管課の評価

団体所管課は、年度終了後、団体の取組や達成状況などから、年度の評価を行う。

事業1	練馬文化センター/大泉学園ホール
取組内容	<p>①著名なオーケストラ・演奏家によるクラシックコンサートを練馬文化センターで定期的に実施する。</p> <p>②区内各所に拠点を設け、区民に身近な場所で気軽に音楽に触れられる機会を提供する。ユニバーサルデザインに積極的に取り組み、事業にUDトーク等のICTを活用する。</p> <p>③「能と狂言シリーズ」(新規)、「万作・萬斎狂言の会」、狂言師派遣事業、能楽師派遣事業(新規)を実施する。</p> <p>④区民等に対して、幅広い分野の公演事業の機会を提供するため、施設の稼働率を向上する。</p>

目標①	質の高いクラシックコンサートの実施 アンケートにおける来場者の満足度95.0%			
年度別 取組計画	元年度	2年度	3年度	4年度
	—	95.0%	95.0%	95.0%
実績	92.6%	92.7%	94.2%	90.3%
団体の達成 状況の評価	—	B	B	B
備考 (※)	—		第一線で活躍する奏者等による質の高いコンサートを実施し、来場者から公演の内容に対して高い評価を受けた。	令和3年度に続き2公演を実施。両公演ともチケットは完売し、来場者数は増えた。アンケートの母数が増えたため、満足度は若干下がったが、ミュンヘン国際音楽コンクール優勝者による質の高いコンサートを実施するなど、両公演とも好評を博した。

目標②	音楽を誰もが身近に楽しめる取組 拠点2カ所			
年度別 取組計画	元年度	2年度	3年度	4年度
	—	0カ所	1カ所	2カ所
実績	0カ所	2カ所で試行	2カ所	3カ所
団体の達成 状況の評価	—	B	A	A
備考 (※)	—		光が丘・関区民ホールの2ヶ所でアフタヌーン・ミニコンサートを開催し、気軽に音楽に触れられる機会を提供した。	生涯学習センター、関区民ホール、光が丘区民ホールで実施し、身近な場所で気軽に音楽を楽しむ機会を提供した。

目標③-1	能・狂言公演の定期的な実施、子どもが能・狂言を体験する機会の提供(万作・萬齋狂言の会の公演)年間2公演			
年度別 取組計画	元年度	2年度	3年度	4年度
	—	1公演	2公演	2公演
実績	1公演	1公演	2公演	1公演
団体の達成 状況の評価	—	B	B	B
備考 (※)	—		新型コロナウイルス感染症の影響により、万作・萬齋狂言の会は小ホールから大ホールに会場のみを変更して実施した。	大規模改修工事に伴い、練馬文化センターが10月15日より休館となったため、5月11日に1公演実施した。
目標③-2	能・狂言公演の定期的な実施、子どもが能・狂言を体験する機会の提供(学校への狂言師派遣事業・能楽師派遣事業)年間10校			
年度別 取組計画	元年度	2年度	3年度	4年度
	—	8校	10校	10校
実績	8校	8校	5校	7校
団体の達成 状況の評価	—	B	C	B
備考 (※)	—		新型コロナウイルス感染症の影響により、5校での実施とした。実施校においては、日程や内容を変更することなく実施できた。	新型コロナウイルス感染症の感染状況を踏まえ、狂言師派遣事業は去年同様5校で実施。一方で、能楽師派遣事業を新たに開始し、2校にて実施した。
目標④-1	ホール利用の促進(練馬文化センター大ホール) ホール稼働率78.0%			
年度別 取組計画	元年度	2年度	3年度	4年度
	—	77.0%	78.0%	78.0%
実績	71.0%	28.0%	52.0%	66.0%
団体の達成 状況の評価	—	C	C	C
備考 (※)	—	新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、臨時休館、定員や開館時間の制限を設けたこと、および利用者から感染予防によるキャンセルの申し出があったため。	新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、臨時休館、定員や開館時間の制限を設けたこと、および緊急事態宣言やまん延防止重点措置の発出、感染者数の増加により、利用をキャンセルする団体が相当数いた。	練馬区方針に基づく新型コロナウイルス感染症対策を講じながら館運営を行ったが、出演者の罹患や学校関係のキャンセル等により目標には至らなかった。なお、稼働率は大規模改修工事による休館のため、10月15日までのものである。

目標④-2	ホール利用の促進(練馬文化センター小ホール) ホール稼働率84.0%			
年度別 取組計画	元年度	2年度	3年度	4年度
	—	83.0%	84.0%	84.0%
実績	77.0%	40.0%	61.0%	72.0%
団体の達成 状況の評価	—	C	C	C
備考 (※)	—	新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、臨時休館、定員や開館時間の制限を設けたこと、および利用者から感染予防によるキャンセルの申し出があったため。	新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、臨時休館、定員や開館時間の制限を設けたこと、および緊急事態宣言やまん延防止重点措置の発出、感染者数の増加により、利用をキャンセルする団体が相当数いた。	練馬区方針に基づく新型コロナウイルス感染症対策を講じながら館運営を行ったが、出演者の罹患や学校関係のキャンセル等により目標には至らなかった。なお、稼働率は大規模改修工事による休館のため、10月15日までのものである。
目標④-3	ホール利用の促進(大泉学園ホール) ホール稼働率93.0%			
年度別 取組計画	元年度	2年度	3年度	4年度
	—	93.0%	93.0%	93.0%
実績	88.0%	49.0%	68.0%	87.0%
団体の達成 状況の評価	—	C	C	B
備考 (※)	—	新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、臨時休館、定員や開館時間の制限を設けたこと、および利用者から感染予防によるキャンセルの申し出があったため。	新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、臨時休館、定員や開館時間の制限を設けたこと、および緊急事態宣言やまん延防止重点措置の発出、感染者数の増加により、利用をキャンセルする団体が相当数いた。	出演者やスタッフの新型コロナウイルス感染症罹患によるキャンセル等があったが、令和元年度実績程度の稼働率まで回復した。

取組内容の評価(令和2年度)

団体	令和2年度は新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、臨時休館や定員・利用時間の制限を設けたうえでの運営となったため、施設の稼働率は計画達成に至らなかった。練馬文化センターの主催事業は、中止や延期に伴う開催日程の変更等を行った事業もあったが、取組内容としては概ね計画通り達成できた。
事業 所管課	文化センターおよび大泉学園ホールの柱である音楽・伝統文化に関する事業や、拠点化に向けた区内各地でのイベントなど、計画通りに実施したことを評価する。ホール稼働率は目標値に達していないが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、区の指示に基づいた休館や公演の延期、業界ガイドラインに基づいた感染症対策等を徹底し、クラスターを発生させることなく、安全・安心に事業を実施した。サーマルカメラの運用や公演事業における実施場所の変更(小ホール⇒大ホール)等を行い、利用者の安全確保に積極的に取り組んだ。

取組内容の評価(令和3年度)	
団体	施設稼働率は、令和2年度より向上したが、緊急事態宣言やまん延防止等重点措置等の発出により臨時休館、利用時間や人数の制限、更には感染者数の状況により利用を中止する団体等が一定数あり、計画達成には至らなかった。協会が主催する事業については、新型コロナウイルス感染症対策等を講じたうえで実施し(1公演のみ中止)、来場者から高い満足度を得ることができた。拠点化に向けた事業も2ヶ所で実施し、全体として概ね計画通り達成できた。
事業所管課	新型コロナウイルス感染症の感染拡大による影響がありながらも、アトリウムミニステージの代替としてアフタヌーン・ミニコンサートを開催したことや、公演の実施会場を文化センター小ホールから大ホールに変更したことなど、イベントを継続して開催できるよう工夫したことを評価する。音楽・伝統文化に関する事業や、拠点化に向けたコンサートを2ヶ所で開催し、アンケート結果も高い満足度を得ていることを評価する。
取組内容の評価(令和4年度)	
団体	練馬区方針に基づく新型コロナウイルス感染症対策を講じながら館運営を行ったが、練馬文化センターの稼働率については、出演者の罹患や学校関係のキャンセル等により目標には至らなかった。一方、大泉学園ホールの稼働率については、令和元年度実績程度まで回復した。今後も稼働率の目標を達成するため、練馬文化センター再開後を目途に、抽選会以降の空き情報を案内する仕組みを検討する。事業については、練馬文化センター休館前の前期に集中して実施した。新型コロナウイルス感染症対策を講じながらの事業運営であったが、全ての事業を年度当初の計画通りに実施できた。引き続き、練馬文化センター休館中の令和5年度は、大泉学園ホールや区内施設を利用しながら事業を継続し、令和6年度に向けて各計画の指標を視野に、事業計画を策定する。
事業所管課	施設稼働率については、コロナ禍の影響がまだまだ残っている状況ではあるが、区内ホールを活用し、身近に音楽を楽しめる機会を充実するとともに、能楽師派遣事業を新たに開始するなど、取組を進めたことを評価する。また、文化センター改修工事に合わせ、年間の事業計画を工夫したことに加え、利用者への適切な対応を行ったことで、混乱なく休館に移行できたことを評価する。

事業2	美術館			
取組内容	①充実した展覧会と効果的な広報活動を実施することで来館者数の増加につなげる。 ②美術館活動の質を高めるため、収蔵コレクションを整理し、活用する。			
目標①	美術館の認知度の向上および来館者数増に向けた取組 来館者数110,000人			
年度別取組計画	元年度	2年度	3年度	4年度
	—	115,000人	110,000人	110,000人
実績	104,016人	41,958人	79,795人	78,254人
団体の達成状況の評価	—	C	C	C
備考(※)	—	<p>新型コロナウイルス感染症の感染拡大による企画展、学校展(小学校連合同工展、中学校生徒作品展、小中学校連合書きぞめ展)、貸館事業(区民ギャラリー)などの会期短縮や中止のため、来館者が大きく減少し、計画達成に至らなかった。</p>	<p>主催展については観覧見込数を15.6%上回り、大勢の方に観ていただける魅力ある企画展となった。全体としては来館者数は大幅に回復したが、新型コロナウイルス感染症の影響により、学校展、貸館事業などの中止や会期短縮のため取組計画には届かなかった。年間を通じてSNSを活用し、展覧会・イベント情報を発信する等、積極的な広報活動を展開し、来館者数の増加に努めた。</p>	<p>コロナ禍の影響もあり、来館者数は横ばいだった。展覧会のうち3つの企画展については、いずれもメディアに取り上げられ、日本の中のマネ展は(一社)日本アート保存協会の秀逸企画賞を受賞するなど、注目度の高い展覧会となった。広報についても、SNSだけでなく、新たにGoogle広告を実施するなど、積極的に取り組んだ。</p>
目標②-1	収蔵コレクションの整理・活用(収蔵コレクションの整理)			
年度別取組計画	元年度	2年度	3年度	4年度
	—	調査	検討	検討
実績	—	調査	検討	検討
団体の達成状況の評価	—	B	B	B
備考(※)	—		<p>2年度に実施した収蔵品の現状調査を受け、画像データおよびデータベースの検索性をより高めるための検討を行った。</p>	<p>美術館リニューアルに合わせたデータベースの更新に向け、収蔵庫の整理に着手した。</p>

目標②-2	収蔵コレクションの整理・活用(収蔵コレクションを活用した展覧会の開催) 展覧会の開催2回			
年度別 取組計画	元年度	2年度	3年度	4年度
	—	2回	2回	2回
実績	2回	2回	2回	2回
団体の達成 状況の評価	—	B	B	B
備考 (※)	—		「8つの意表展」、「サブミ ント展」を開催し、切り口を 工夫して収蔵作品を紹介 することができた。	「時代を映す絵画たち」、 「平子雄一×練馬区立美 術館コレクション」を開催。 現代作家とのコラボレー ションなど、収蔵作品を活 用する新たな取組を行っ た。

取組内容の評価(令和2年度)

団体	令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大による企画展、学校展(小学校 連合図工展、中学校生徒作品展、小中学校連合書きぞめ展)、貸館事業(区民ギャラ リー)などの会期短縮や中止のため、来館者数は計画達成に至らなかった。収蔵コレ クションの整理・活用については予定通り達成することができた。
事業 所管課	来館者数は目標値に達していないが、企画展の混雑状況等のSNS発信、工作等の動 画配信の実施など、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止に配慮しながら事業 を進めたことを評価する。 収蔵品の整理を進め、収蔵品を中心とした意欲的な企画展を開催するなど、美術館 再整備を視野に入れた収蔵品活用の取組を評価する。 美術館連絡協議会における令和2年度奨励賞の受賞(「背く画家 津田青楓とあゆむ 明治・大正・昭和」および「式場隆三郎 脳室反射鏡」)など、良好な実績、成果が認 められる。

取組内容の評価(令和3年度)

団体	主催展については観覧見込数を15.6%上回り、大勢の方に観ていただける魅力ある企 画展となった。全体としては、来館者数は前年度より大幅に回復したが、新型コロナウ イルス感染症の影響により、学校展、貸館事業などの中止や会期短縮のため、取組 計画には届かなかった。 年間を通じてSNSを活用し、展覧会・イベント情報を発信する等、積極的な広報活動 を展開し、来館者数の増加に努めた。 収蔵コレクションの整理・活用のための検討については、計画通り進めることができ た。
事業 所管課	新型コロナウイルス感染症の感染拡大による影響がありながらも、動画配信やSNSを 積極的に活用し、館の魅力を向上させたことを評価する。「馬場のぼる展」は歴代4位 となる約3万人の観覧者数を記録するなど、特筆すべき成果を上げたことを評価す る。収蔵コレクションの整理を進め、意欲的な企画展を開催するなど、美術館再整備 を視野に入れた収蔵品活用の取組を評価する。

取組内容の評価(令和4年度)

団体

コロナ禍の影響もあり、来館者数においては計画達成には至らなかったが、実施した3つの企画展は、いずれもメディアに取り上げられ、日本の中のマネ展は(一社)日本アート保存協会の秀逸企画賞を受賞するなど、注目度の高い展覧会となった。コレクション展では現代作家とのコラボレーションなど新たな取組を行った。企画展において、従来のSNSだけでなく、新たにGoogle広告を実施し、積極的な広報活動を展開した。
今後、美術館の再整備を見据え、収蔵コレクションを体系的に整理する。併せて、収蔵品を活用した展覧会を開催していく。

事業
所管課

「日本の中のマネ展」が(一社)日本アート保存協会の秀逸企画賞を受賞したほか、3つの企画展がメディアで紹介されるなど、魅力的な展覧会を実施したことを評価する。コロナの影響もあり、来館者数は目標達成に至らなかったが、SNSだけでなく、Google広告などWeb広告も新たに活用するなど、積極的な広報活動を展開し、意欲的に館の魅力の向上に取り組んだことを評価する。

事業3	石神井公園ふるさと文化館			
取組内容	<p>①展覧会、各種事業の内容を充実し、魅力をアップし、満足度を高める。広報を拡大し、館の周知度を高め、来館者数の増につなげる。</p> <p>②常設展示を更に魅力のあるものにするため、機器、設備の老朽化や研究結果の進展などに対応して内容や手法を改善する。</p>			
目標①-1	来館者数増に向けた取組(来館者数) 来館者数206,000人			
年度別 取組計画	元年度	2年度	3年度	4年度
	—	206,000人	206,000人	206,000人
実績	201,137人	145,333人	146,476人	158,162人
団体の達成 状況の評価	—	C	C	C
備考 (※)	—	新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、特別展・企画展や関連事業が一部中止となり、来館者数の計画達成には至らなかった。	新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、企画展や関連事業の一部中止や、講演会の定員縮小があり、来館者数の計画達成には至らなかった。	コロナ禍の中ではあったが、事業の中止等はなく、団体見学の入場者数が回復したことにより、来館者数は前年度よりも増加した。
目標①-2	来館者数増に向けた取組(来館者満足度) 来館者の満足度95.0%			
年度別 取組計画	元年度	2年度	3年度	4年度
	—	95.0%	95.0%	95.0%
実績	92.4%	93.0%	94.2%	92.7%
団体の達成 状況の評価	—	B	B	B
備考 (※)	—		企画展「思い出のとしまえん」は開館以来最高の来館者数であり、講演会の応募も多かったため、落選者対応の講演会映像上演も行い、満足度向上に努めた。	3つの企画展では、新出資料の展示など、館蔵資料を活用し満足度向上に努めた。「昭和初期の練馬ライフ」は8,000人近い観覧者を得るとともに、アンケートには「期待以上の展示だった」「練馬区の歴史がよくわかった」等の声が寄せられた。

目標②	常設展示室のリニューアル			
年度別 取組計画	元年度	2年度	3年度	4年度
	—	リニューアル 計画作成	リニューアル 基本設計作成	リニューアル 詳細設計作成
実績	現行展示 検証	リニューアルに向けた調査・研究	リニューアルに向けた調査・研究	リニューアルに向けた調査・研究
団体の達成 状況の評価	—	C	C	C
備考 (※)	—	新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴う状況の変化により、区と協議を行い、リニューアルの手法を全面的に見直すこととした。	リニューアルの方向性について、引き続き区と協議を行うとともに、常設展示での活用に向け、新たな資料の調査・研究を進めた。	リニューアルの具体的な方法や内容について、区と協議しながら検討を進めた。常設展示での活用に向け、新たな資料の調査・研究を行った。

取組内容の評価(令和2年度)

団体	令和2年度は新型コロナウイルス感染症の感染拡大による臨時休館等があったため、特別展・企画展や関連事業が一部中止となり、来館者数は計画達成に至らなかったが、感染症対策を実施しながら、展覧会や各種事業の内容の充実を図り、新たに動画配信を行う等満足度を高める取り組みを行った。 常設展示室のリニューアルについては、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴う状況の変化により、区と協議を行い、リニューアルの手法を全面的に見直すこととした。
事業 所管課	来館者数は目標値に達していないが、展覧会の混雑状況等のSNS発信、常設展示案内や講演会等の動画配信を1年間を通じて実施するなど、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止に配慮しながら事業を進めたことを評価する。 特別展(「昭和のこどもたち」および「こわい?こわくない?わにわにの絵本展」)では目標を超える観覧者を得た。利用者アンケートの満足度は93%であり、良好な実績、成果が認められる。 常設展示室リニューアルの方向性については、今後の区財政等の状況を見ながら、文化振興協会と協議を進めることとする。

取組内容の評価(令和3年度)

団体	新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、臨時休館や企画展、関連事業の一部中止、講演会の定員縮小等を行ったため、来館者数は計画達成に至らなかった。館運営にあたり、感染症対策を実施するとともに、展覧会・事業内容の充実やSNS登録者数増等、来館者満足度および館の認知度を高める取り組みを行った。 常設展示のリニューアルについては、リニューアルの方向性について、引き続き区と協議を行うとともに、常設展示での活用に向け、新たな資料の調査・研究を進めた。
事業 所管課	新型コロナウイルス感染症の感染拡大による影響がありながらも、HPやSNSを積極的に活用し、館の魅力を向上させたことを評価する。企画展「思い出のしまえん」では、集客に工夫し、目標の2倍を超える観覧者数(15,790人)を記録するという特筆すべき成果を上げたことを評価する。 常設展示のリニューアルの方向性については、引き続き文化振興協会と協議を進めることとする。

取組内容の評価(令和4年度)

<p>団体</p>	<p>コロナ禍の中ではあったが、事業の中止等はなく、団体見学の入場者数が回復したことにより、来館者数は前年度よりも増加した。利用者の満足度を高めるため実施した「縄ない機」の動画配信については、安定して視聴回数を伸ばしている。また、交流会の実施など、サポーターの活躍の場の再開に取り組んだ。</p> <p>常設展示のリニューアルについては、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴う状況の変化を踏まえ、区と継続して協議を行っているところである。今後、収蔵資料の調査・研究をさらに進め、魅力的な展示を展開していく。</p>
<p>事業 所管課</p>	<p>開催した特別展および3つの企画展について、地域特有のテーマを取り上げた魅力的な企画を行ったことを評価する。</p> <p>コロナの影響もあり、来館者数は計画達成に至らなかったが、サポーター活動をはじめ、コロナ禍で制限されていた取り組みを再開させるとともに、「縄ない機」の動画配信など、館の情報発信を工夫したことを評価する。</p>

財務・組織	事務局(協会本部)
取組内容	<p>①自主財源で行う事業に投資するための財源を確保するため、自動販売機の設置許可による使用料や物販の収益などの外部資金を獲得する。</p> <p>②各施設間の調整、支援機能、広報機能の強化および「映像∞文化のまち構想」などの新規事業に対応できるよう事務局体制を見直す。</p> <p>③区の人事給与制度に倣い、頑張った人が報われるメリハリのある人事・給与制度(業績評価制度)を構築していく。</p> <p>④職員個人の能力の向上を目的に、人材育成方針・計画を策定し職員の自覚を促す。係長職など管理監督者職に固有職員を配置する。</p> <p>⑤各施設における事業において、専門家等の意見を踏まえつつ、ユニバーサルデザインに積極的に取り組んでいく。</p> <p>⑥(仮称)「総合企画戦略チーム」を設置し、その戦略のもとで職員の企画力の強化および専門性の向上を図る。</p>

目標①	収益事業等会計の導入			
年度別取組計画	元年度	2年度	3年度	4年度
	—	検討	検討	導入
実績	—	検討	検討	導入
団体の達成状況の評価	—	B	B	B
備考	—		検討を進め、自動販売機設置による物品販売事業を行うこととした。令和4年度より収益事業を実施するために、定款の変更等必要な手続きを行った。	収益事業等会計を導入し、練馬文化センター、大泉学園ホールおよび石神井公園ふるさと文化館において、自動販売機設置による物品販売事業を開始した。

目標②	事務局体制の見直し			
年度別取組計画	元年度	2年度	3年度	4年度
	—	組織再編(一部)専門人材の活用	組織再編専門人材の活用	専門人材の活用
実績	—	組織再編(一部)専門人材の活用	組織再編専門人材の活用	専門人材の活用
団体の達成状況の評価	—	B	B	B
備考	—		課題解決のため、組織枠組みにとらわれない柔軟な検討体制の構築に取り組んだ。アドバイザーによる文化芸術に関する情報提供および研修、広報専門の職員による研修を実施した。	協会経営会議への出席等を通じて、アドバイザーによる文化芸術に関する情報提供や協会運営に対する助言等を受けた。

目標③	人事・給与制度の見直し			
年度別 取組計画	元年度	2年度	3年度	4年度
	—	検証	制度見直し・業績 評価制度の構築	運用
実績	—	給与・手当関係の 見直しの実施	制度見直し・人事 考課制度の構築	運用
団体の達成 状況の評価	—	B	B	B
備考	—		人事給与制度を見直し、 設計し直した。 人事考課制度による評価 を実施し、職員が設定し た目標の達成度およびそ の他の業績を踏まえ評価 を行った。	新たな人事給与制度に基 づき、計画どおり見直しを 実施した。 人事考課制度による評価 を引き続き実施した。
目標④	人材育成方針・計画の策定			
年度別 取組計画	元年度	2年度	3年度	4年度
	—	検証	人材育成方針 ・計画の策定	運用
実績	—	検証	人材育成方針 の策定	運用
団体の達成 状況の評価	—	B	B	B
備考	—		令和4年3月に、協会経営 会議、区への報告を経て 策定した。	人材育成方針に基づく新 たな研修体系に則り、研 修を実施した。
目標⑤	ユニバーサルデザインの展開			
年度別 取組計画	元年度	2年度	3年度	4年度
	—	事業内容の 検証	事業への反映	事業への反映
実績	—	広報物への音声コー ド導入とホームページ の英語対応	事業への反映	事業への反映
団体の達成 状況の評価	—	B	B	B
備考	—		各施設のホームページに バリアフリー情報、車い す・ベビーカー利用者へ の写真付きルートを掲載 することで、情報発信事業 に反映した。	職員の意識啓発を目的に やさしい日本語研修を実 施した。また、障害当事者 による事業検証や指差し ボードを窓口に設置した。

目標⑥	(仮称)「総合企画戦略チーム」の設置、専門知識を有する外部人材の配置または活用、相談体制の構築			
年度別 取組計画	元年度	2年度	3年度	4年度
	—	(仮称)総合企画戦略チームの設置	相談体制の構築	運用
実績	—	(仮称)企画戦略会議の試行として、外部有識者との意見交換会を開催	協会企画戦略会議の設置	運用
団体の達成状況の評価	—	B	C	B
備考	—		令和3年9月に外部有識者を招き協会企画戦略会議を開催したが、1回の開催に留まった。	アニメ資料の活用について、外部有識者を招いて協会企画戦略会議を2回開催した。また、専門家による現地調査を実施した。

取組内容の評価(令和2年度)

団体	協会の運営および体制の強化に係る各取組について概ね計画通りに達成できた。今後、各施設との連絡会議や事務局内会議、外部の専門家を含む協会企画戦略会議を通じて、経営計画に基づいた協会の将来像などを具体的に描きながらあるべき姿を確立していく。
団体 所管課	収益事業等会計導入を検討し、文化庁や民間団体の助成金獲得など自主財源確保に努めたことを評価する。 招聘した外部人材の意見を取り入れる仕組みや組織体制を適宜見直しており、文化芸術をはじめ、労務管理や人材育成など、今後の法人運営の強化に期待できる。 広報物への音声コード貼付やHPの英語表記など、新たなユニバーサルデザイン対応を導入したことを評価する。

取組内容の評価(令和3年度)

団体	協会の運営および体制の強化に係る各取組について概ね計画通りに達成できた。人材育成方針の策定では、協会職員に求められる能力を明確にし、能力を育成する取組を体系化し明示した。ユニバーサルデザインの検討チームを立ち上げ協会の課題を洗い出した。 今後、各施設・区との連絡会議や事務局内会議、外部の専門家を含む協会企画戦略会議を通じて、経営計画に基づいた協会の将来像などを具体的に描きながらあるべき姿を確立していく。
団体 所管課	収益事業等会計の導入や人材育成方針の策定など、組織の体制強化にかかる取り組みを進めたことを評価する。 ユニバーサルデザインをテーマに組織横断的なプロジェクトチームでの検討を進め、先進団体への視察や各館ホームページ改修など具体的な取組に繋がったことを評価する。組織体制については、必要に応じて柔軟に組織再編を行っていることを評価する。

取組内容の評価(令和4年度)

<p>団体</p>	<p>協会の運営および体制の強化に係る各取組について概ね計画通りに達成できた。収益事業等会計や人事給与制度、人材育成方針等、2・3年度に計画的に準備や策定を進めた取組について、着実に導入や運用に繋がった。 今後、危機管理体制の整備やプロジェクトチームの活用等、具体的な取組を進めていく。また、人材育成や外部資金の獲得等、長期的な法人運営の視点から必要な取組を着実に実施し、組織体制を強化していく。</p>
<p>団体 所管課</p>	<p>収益事業等会計や人事給与制度、人材育成方針等、協会全体の体制強化にかかる取組について、導入や運用に着実に繋がったことについて評価する。 職員研修として実施したやさしい日本語教室や、ふるさと文化館にて行った障害当事者による常設展の検証など、誰もが文化芸術を楽しんでもらえる環境整備に向け主体的に検討を進めたことを評価する。 また、協会企画戦略会議にて、ふるさと文化館が所蔵するアニメ資料の活用方策を研究するなど、今後の魅力的な事業展開に向けた意義のある検討を組織的に進めたことを評価する。</p>